

# 1. 調査報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成21年10月17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2771601974		
法人名	社会福祉法人こぼと会		
事業所名	グループホームたんぼぼ		
所在地	大阪府吹田市山田東2丁目31-5 (電話) 06-6816-3810		
評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん		
所在地	大阪府岸和田市三田町1797		
訪問調査日	平成21年10月8日	評価確定日	平成21年12月2日

【情報提供票より】 (平成21年8月25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年1月1日		
ユニット	3ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	28 人	常勤	21人 , 非常勤 7人 , 常勤換算 25.5人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	3階建ての 1~3 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000円	その他の経費(月額)	15,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(2,000,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,800円		

### (4) 利用者の概要(平成21年8月25日現在)

利用者人数	27名	男性	6名	女性	21名
要介護1	5名	要介護2	9名		
要介護3	9名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 81歳	最低	69歳	最高	97歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	いのこの里診療所 池田歯科
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームたんぼぼ」は大阪モノレール万博記念公園駅から徒歩12分のところにあり、通所介護サービス事業所を併設している。建物は和風の趣きでしっかりと落ち着いた雰囲気の中、心と心が通い合う、尊厳ある自立した日常生活を営むことができるよう支援している。「いつでも、どんなときにも、人として尊重され、その人の想いを大切にしたい暮らしが保障されるホームでありたい」を理念としている。職員は利用者の心に寄り添い、生きることが喜びになるような個別ケアに取り組んでいる。また、毎月「たんぼぼだより」を発行して家族とのコミュニケーションを図り、家族懇談会などを活用して事業所との信頼や協力関係の構築に配慮している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の課題であった「改善シート等に記入して課題についてどのように取り組んだか記録に残す」について、グループごとに検討し、改善策を見出そうとする取り組みは見られる。しかし、課題を整理しどのように取り組んだか具体的な記録は作られていない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は主として管理者とユニット主任が行っており、全職員が外部評価の意義、必要性を理解し、自己評価に取り組むまでには至っていない。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、吹田市コミュニティ協議会会長、福祉委員、NPO法人シルバーアドバイザー、PTA会長、公民館館長、保護司、市社会福祉協議会職員、利用者の家族等が参加し、概ね2ヶ月毎に開催している。会議では、事業所の活動内容や利用者の状況などが報告され、意見交換も行なわれている。次回の会議では家族会の立上げを議題に入れる予定をしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月1回「たんぼぼだより」を発行し、事業所の行事・活動内容や暮らしぶりを家族に知らせている。また、利用者個々の健康状態や預かり金の状況は毎月1回の面会の際に報告している。さらに、3ヶ月毎に看護師から健康状態を、ユニットの主任からは利用者個々の生活の様子をそれぞれ文書で伝えている。職員の異動があれば、家族懇談会や運営推進会議で報告している。介護相談員も受け入れている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会の敬老会や運動会、近隣の神社の秋祭り、高校の文化祭、公民館でのティサロンや催し物などに参加したり、出展している。昨年からは吹田市の広域防災訓練に参加し、地域との連携を深める努力を行なっている。地域の方のメイク、清掃、介護サポーター、傾聴等のボランティア活動を受け入れ、近隣のマンションの自治会の勉強会で職員が講師として認知症について講義を行っている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「いつでも、どんなときにも、人として尊重され、その人の想いを大切にしたい暮らしが保障されるホームでありたい」を理念とし、「その人らしい暮らしの実現に向けて援助を行なうなどを運営方針にしており、理念の実現に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念及び運営方針は各ユニットの見やすいところに掲示している。年2回の方針会議でも理念の確認と理念に沿ったテーマを設定し、討議することで共有化を図り、その実現に向けて日々取り組んでいる。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老会、自治会の行なう運動会、また近隣の神社の秋祭りや高校の文化祭への参加、公民館での催しにも参加・出展するなど、積極的に地域との交流を深める取組みを行っている。来年には地元小学校での盆踊りへの参加も計画している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は主に管理者とユニットの主任が行っており、全職員が外部評価の意義、必要性を理解して自己評価に取り組むまでには至っていない。評価結果については、全体会議やユニット会議において職員に伝達し、改善事項について検討し改善策を見出そうとする取り組みは見られる。が改善計画は作成していない。	○	自己評価及び外部評価を実施する意義等を全職員に浸透させ、少なくとも全職員参加型の自己評価への取組みを期待したい。そして、評価において明らかとなった改善点については、改善計画を策定して具体的な改善に向けた実践的な取組みを全職員が参加して行なうことが望ましい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、吹田市コミュニティ協議会会長、福祉委員、NPO法人シルバーアドバイザー、PTA会長、公民館館長、保護司、市社会福祉協議会職員、利用者の家族等が参加し、概ね2ヶ月ごとに開催している。会議では事業所の活動内容や利用者の状況などが報告され、意見交換も行なわれている。		
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	吹田市との懇談会を通じて、担当者に事業所の現状を伝える場を設けている。また、市が主催する2ヶ月に1回のグループホーム連絡会に管理者が参加し、サービスの質の向上を目指し、様々なテーマごとに意見交換を行ったり、学習会を設けたりしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	「たんぼぼだより」を毎月1回発行し、事業所の行事・活動内容や利用者の暮らしぶりを家族に伝えている。利用者個々の健康状態や預かり金の状況は毎月1回の面会を通して報告している。さらに3ヶ月ごとに、看護師から健康状態を、ユニットの主任からは利用者個々の生活の様子をそれぞれ文書で伝えている。職員の異動があれば、家族懇談会で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見、不満、苦情等は、訪問時や2ヶ月ごとに行なう家族懇談会の場で直接聞き取っている。出された意見等は文書にして職員間で回覧し、情報を共有して改善に努めている。介護相談員も積極的に受け入れており、意見が出れば報告書に記録し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員と個人面談を実施し、コミュニケーションの機会を設け、離職を最小限に抑える努力を行なっている。異動や離職に伴う利用者のダメージはこれまで見られていないが、家族はもとより職員にも全体会議や運営推進会議において経緯の説明を行なっており、安心できる職場づくりに取り組んでいる。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修計画は策定されているが、事業所独自の研修計画は策定していない。しかし、4ヶ月ごとの併設の通所介護サービス事業所との合同ユニット会議において、テーマ別の研修会や勉強会を実施している。また、全国認知症グループホーム協会大会や老人福祉連合大会に参加する等外部研修に積極的に参加するなど、研修への参加がしやすい環境を整えている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に吹田市のグループホーム連絡会に参加し同業者との情報交換に努め、互いの施設見学などを行っている。また、吹田市介護保険事業者連絡会、吹田市地域ケア会議、21世紀老人福祉の向上を目指す施設連絡会に所属し、研修、会合、交流会等に参加してサービスの質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に併設の通所介護サービスを利用しながら見学したり、ショートステイを利用するなどして、利用者が職員や環境に徐々に馴染み、安心して利用できるよう支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人として対等であり、利用者を一方的に介護される立場に置かないように、コミュニケーションの時間を多く持ち、一緒に過ごせる喜びを伝えている。お花を生ける、お茶を入れる等利用者が主体的に過ごせる場面を作り、共に支え合う関係作りに努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に利用者や家族の意向を聴取し、個別ケア計画に反映している。入居後には、普段から信頼関係の構築を優先し、会話の中から思いや希望を汲み取るようにしている。業務日誌等で利用者の思いや希望を把握した時も、個別ケア計画に反映させたり、家族に提案したりして希望の実現に努力している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を使用してアセスメントを行い、利用者や家族の意向を反映した介護計画を作成している。家族の面会時には利用者の現状を伝えてカンファレンスに参加してもらい、情報の共有を図りケアに反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、体調の変化や本人や家族の要望に応じて毎日カンファレンスを行い必要な見直しと対応を行っている。物忘れ外来など専門医の受診には必ず職員も同行して医師と情報交換を行い現状に即した介護計画の見直しに活用している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じて、行きつけの理・美容院への送迎、物忘れ外来受診同行、コンサートや歌舞伎観賞、カラオケ等個人の希望に応じて可能な範囲で支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医での受診を出来るように支援している。原則として家族が同行するが、緊急時や物忘れ外来受診時には必ず看護師や職員も同行して医師との情報交換を密に行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に看取りに関する指針について説明している。重度化した場合や終末期ケアなどは利用者や家族の希望を受け入れ、看取りのケアを行っている。状況の変化がみられた際には、利用者、家族、主治医、職員が話し合い、方針と対応方法の確認を行い情報を共有し、必要な支援を行うことにしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は理念に則り、利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーを尊重した対応や言葉かけに配慮している。記録類は利用者、家族、訪問者の目に触れにくいように事務室に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課表は作っておらず、利用者一人ひとりのリズムや希望、思いに添って生活できるように配慮している。食事、入浴、外出なども利用者の希望に合わせたケアの実践を心掛けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房は、昨年まで外部委託であったが、今年から施設が運営することになり、利用者の希望によってメニューの変更も容易になり食事の楽しみも増えてきた。利用者は出来る範囲で配膳、後片付け、食器洗い等に参加している。2階と3階のエントランスホールに作り付けのテーブルと椅子を設置しており、家族などの訪問時には食堂に限らず、窓に面したテーブルにも移動して食事することができる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や入浴回数は固定せず、朝から夕方間に利用者の体調や希望に合わせて入浴出来るよう支援している。同性介助を基本とし、原則週2回は入浴できるように配慮している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	配膳、食器並べ、後片付け、洗濯物片づけ等家事活動は個々に応じて役割が持てるように配慮している。茶道の師範免許がある利用者が来客にお茶を出す、お花を生ける等趣味を生かす場面も作っている。ホームの菜園にはさつまいも、ブロッコリー、九条ねぎ等が植えられており、保育園児と一緒に芋掘りを行う事もある。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ユニット全体の外出は花見、夕涼み、盆踊り、文化祭など年4回実施している。散歩、理・美容院等へは利用者の希望によって対応している。また、歌舞伎観賞、コンサート、カラオケ等遠出の外出にも出来る範囲で支援を行っている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の体力や認知の度合いに応じて安全を確保しながら、安易に鍵を掛けることはしていない。事業所の1階から3階までは自由に行き来出来るようエレベーター、ユニットの出入り口は開放している。安全上階段には転落防止のための柵を設置し、玄関はやむ得ず施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回火災避難訓練を実施している。緊急時マニュアルを作成し、家族への連絡体制の充実を図っている。昨年より吹田市の広域防災訓練に参加して地域との連携を図るとともに「グループホームたんぼぼ」を理解してくれる人が増え、地域の人々の協力が得られるよう働きかけている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとり個別にチェック表を活用して毎日の食事・水分摂取量を把握している。1日1200～1300kcal、1000mlを目安にしている。摂取量の少ない利用者には嗜好に合わせて食べやすい食材や形態を工夫して個別支援を行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階玄関のエントランスホールには広くゆったりとしたスペースがある。居間にはテーブルとソファが置いてあり、テレビを見たり新聞を読んだり、ゆっくりと寛ぐことができる。居間と食堂、台所コーナーと続いており、ソファとテーブルの位置に配慮しながら、シンプルで居心地よい環境整備に努めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッド、机と椅子、整理ダンス、電話機、冷蔵庫等使い慣れた馴染みの家具を持ち込んでその人らしい居室作りをしている。利用者、家族の希望によって絨毯、畳などを敷いた居室もある。また、家族写真、時計、趣味の俳句、仏壇等に囲まれて落ち着いて生活が出来るよう配慮している。		

※  は、重点項目。